



災害ボランティアセンター 設置運営訓練に参加



大規模災害時、社会福祉協議会には被災者とボランティアを結び付ける「災害ボランティアセンター」の設置が求められます。いざというときに社会福祉協議会がセンターを迅速に設置、また運営できるように田川地区社協連絡協議会主催で10月5日～6日の2日間、設置・運営訓練をおこないました。福智町社協からは9名の職員が参加し、災害ボランティアセンターの仕組みや他市町村で実際に設置されたセンターの状況等を学びました。また2日目の運営訓練では受付班・ニーズ班・マッチング班・総務班に分かれ、実際にボランティアの受け入れをして班としての動きや、班同士の連携方法などを体得しました。

伊方小学校で障がい者疑似体験学習



11月28日、伊方小学校4年生51人が、車いすやアイマスクを使った障がい者疑似体験学習をおこないました。車いす体験では、実際に体育館内を自分で動かしてみたり、介助の人に押ししてもらいながら、段差をこえてみたりしました。

アイマスク体験では、目隠しをした状態で白杖を使って点字ブロックの上を歩いてみたり、介助してもらいながら歩いてみたりしました。「大変だった」「怖かった」などの感想も聞かれ、安心して暮らせるようなバリアフリーのまちづくりやものづくりが必要なこと。障がいのある人に寄り添うところのバリアフリーも必要なことを学んでくれたのではないかと思います。

ふれあい交流・介護予防教室で健康づくり



神崎の南木地区では、昨年4月にふれあい交流を始めました。ふれあい交流は地域の高齢者が中心に月一回公民館に集まり、体操やゲーム、会食などをして交流を楽しむものです。また同地区では10月から介護予防教室も開催。ストレッチ体操・筋力トレーニング、口腔・栄養管理、認知症予防などで、いつまでも地域で元気に暮らせるよう、からだづくりや交流に励んでいます。

